

| | |
|--|---|
| <p>【技術の名称】 安藤ハザマPCaパイルキャップ工法 -鋼管を用いた杭頭接合法とPCaパイルキャップによる杭基礎構造-</p> | <p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第21-14号 性能証明発効日：2022年1月11日</p> <p>【取得者】 株式会社安藤・間</p> |
|--|---|

【技術の概要】

本技術は、鋼管を用いた杭頭接合法およびPCaパイルキャップを用いて杭基礎構造の省力化を目指すものである。杭頭接合法は、外殻鋼管付きコンクリート杭（以下、SC杭）、遠心力プレストレストコンクリート杭（以下、PRC杭）などの既製杭の頭部に接合鋼管を設置して、その内部に接合筋を配筋したのち、杭中空部、接合鋼管と杭との隙間にコンクリートを充填することにより杭頭接合部を構築する。PCaパイルキャップは、接合筋が貫通する貫通孔を有し、杭頭接合部に上載設置した後、グラウトを充填することで杭頭接合部とパイルキャップを一体化する。PCaパイルキャップは柱・基礎梁接合部が一体化されたPCa構造であるが、揚重を考慮して従来よりも小型化している。なお、PCaパイルキャップは杭頭補強筋があるPRC杭には適用しない。

【技術開発の趣旨】

杭基礎のフーチングは、杭頭部を囲むように設けられるパイルキャップ、基礎梁、および柱で構成される。これらの部材をすべてRC造とすれば、フーチング内に多数の鉄筋が輻輳するので、配筋作業には多くの労力が必要となる。この課題を解決するために、鋼管を用いた杭頭接合法とPCaパイルキャップを開発したものである。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。
 申込者が提案する「安藤ハザマPCaパイルキャップ工法設計・施工指針」に従って設計・施工された杭基礎の杭頭接合構造は、短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、同指針で定める終局耐力および変形性能を有する。

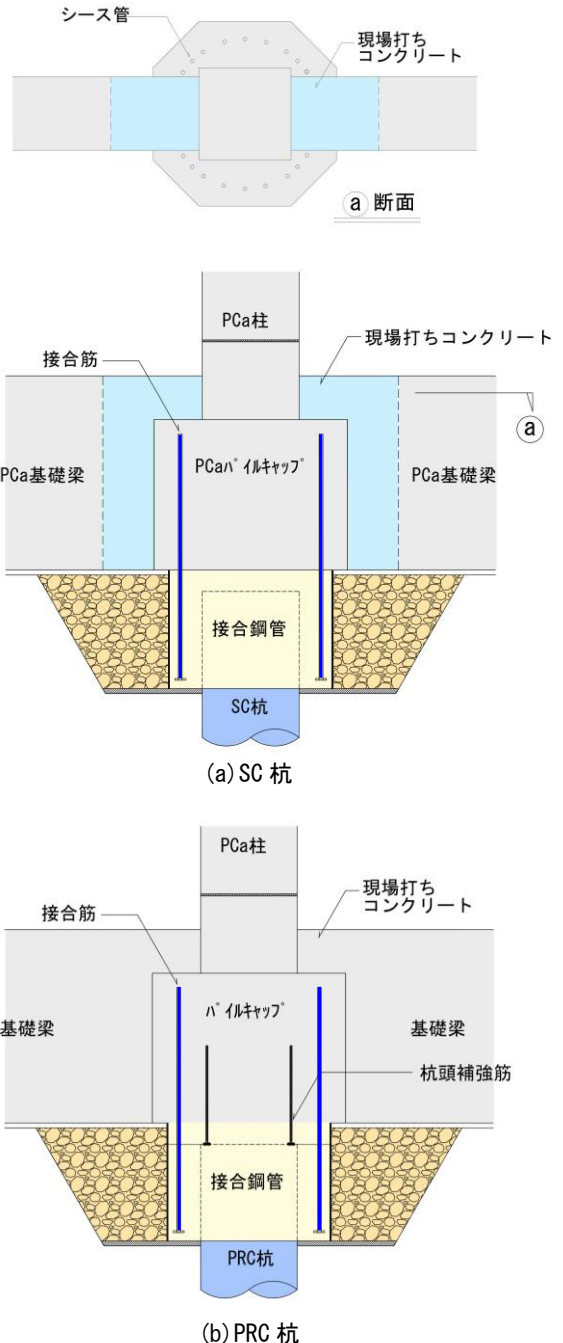


図1 工法概要

【本技術の問合せ先】

株式会社安藤・間 建設本部 技術研究所 担当者：松浦 恒久 E-mail：matsuura.tsunehisa@ad-hzm.co.jp
 〒305-0822 茨城県つくば市刈間 515-1 TEL：029-858-8812 FAX：029-858-8819